

「米中対立を中心とする「グレートゲーム」時代に突入 しつつある世界で、日本はどう振る舞えば良いか」

歴史学者：エマニュエル・トッド（仏人）

（和田 文男 文責）

問い：残念ながら、既に大きく国力を喪失し、多極化する世界の中で、その一極に数えられる地位を失った日本は「中国の台頭」という「歴史的な挑戦」に直面している以上、国力の回復に努めつつ、これまで以上に米国との同盟の緊密化を図るしか選択肢が無いのか？

問い：米中に対し、低姿勢でもっぱら経済重視の現実主義外交（吉田ドクトリン）を貫けば良いのか？

（日本同様の政策で来たドイツは戦略を変更したが、ドイツと日本では地政学上の位置が大きく異なる）

台湾を巡る地政学

米国は一貫して中国の台湾攻撃があった場合の方針を明確に出して来なかったが、バイデン政権になって、繰り返して「台湾を守る」事を明言し、米国の定めている「台湾関係法」に明記されていない事を公言している。

米国の空母の効力が中国の膨大な対艦ミサイルに対抗出来ないとの判断がな

されている。

識者の間では、米国は武力では台湾を守れないとの認識、又、核を使わない
戦闘が起こる可能性が極めて高いと考える。

米・中の抱える問題点

(中国)

人口学的な自殺を遂げつつある国といえる。

2021年5月 人口統計 出生率 1.3

予想以上に低く、老人国家へ傾斜している。

(米国)

「民主主義の守護者」でも「信頼出来る同盟国」でもない

米国社会は過度な能力主義による「格差」と「分断」が生じている。

政治も2大政党の分断が大きくなり、国をまとめる中間の政策が採れない。

日本の振舞い方

中国も米国も信頼するに足りない、であるならば対策は「核保有国」とな
り、核保有により 戦争を不可能にするしかない。

日本は米国の同盟を抜け出し、真の「孤立・自律」の国になるべき。(エマニ
ュエル・トッド)